

【エッセイ】

切手をめぐって —— 北朝鮮と竹島

吉野文雄

北朝鮮に行ったことがある。2008年から2010年の間に3回。あまりおおっぴらにできない状況だったので、公然と書くのはこれが初めてではないか。10年経ったから時効ということにしていきたい。

1990年代に経済危機に見舞われ、国際社会の鬼っ子として生きる国の実像をこの目に焼き付けたい。そんな思いがあった。北朝鮮専門家を標榜する人々が見てきたようなことを言うのも気にかかった。

途中の論理をすっ飛ばしていうと、日本が抱えている拉致問題や国際的に懸念されている核兵器開発やミサイル発射をやめさせるには、経済制裁よりも経済援助が有効であるというのが訪問の感想である。

日本政府は、中国との間に領土問題があるとは認めていないが、韓国との間には竹島（韓国では独島・ドクトと呼ばれている）をめぐって領土問題があることを認めている。北朝鮮も独島の領有を主張しているようなんだが、日本政府はそれにどう対処しているのか。

平壤のみやげもの屋でこの切手を買って帰国してから、北朝鮮について発言している専門家に、「竹島問題を日本に有利に解決するには北朝鮮も交えて韓国を突き上げればいいんじゃないか」と問うたが無反応であった。正直なところ、専門家の多くは北朝鮮が竹島問題に関わっていることすら知らないように見受けられた。

かつて「北朝鮮と東南アジア」というようなタイトルの論文を物したことがあるが、執筆に先立って、東南アジア諸国の北朝鮮の在外公館や北朝鮮政府直営といわれている朝鮮料理レストランを訪れた（在外公館については外から眺めたのみ）。

韓国の朴正熙大統領がミャンマー訪問中に北朝鮮がテロを引き起こしたラングーン事件後、北朝鮮とミャンマーは断交していたが、いつのまにか国交を回復しており、ミャンマーの首都ネーピードー建設には北朝鮮も一枚噛んでいた。国交回復の時期が日本語や英語の資料では確定できなかったのが残念だ。

金正日の弟、金正男が殺害される直前まで潜伏していたクアラルンプールの隠れ家を見に行ったことがある。なんと、在マレーシア北朝鮮大使館から徒歩数分というところにあった。北朝鮮という国の不可解さは想像を超えるものがある。

北朝鮮対韓国のけんかを見たのは1990年代のジャカルタ、ホテル・メンテン2のいかかわしいナイトクラブであった。店のマネージャー代わりにママさんは同じ韓民族どうしを隣り合うテーブルに案内したため、女性をめぐってトラブルになったようだ。暴力をふるわれたのはインドネシア女性で、なんとも痛ましいことであった。

核兵器開発や拉致といった未解決の問題に重要性がないとは思わないが、同時に北朝鮮に今生きている人々の独裁からの解放もまた優先順位の高い問題である。経済制裁には限

界がある。日本をはじめとする関係諸国が経済援助をちらつかせるだけでも事態は改善するのではないかと考える。竹島問題もそのカードに使えないだろうか。

